

通り名で道案内マップ

「通り名で道案内」位置番号標識の利用のしかた



実験エリアである須崎市街地の主要な通りに通り名称をつけており、各通りの電力柱や街路灯柱を活用して、「通り名称と位置番号表示」を設置しています。

起点から終点に向かい、おおむね10mごとに、右側に奇数番号を、左側に偶数番号を表示します。例えば#5は起点からおおむね50m、道路右側となります。電力柱や街路灯柱を活用して表示しますので、表示がされないところもあります。

また、この方式によりお店を案内する際のルールとして右側0から10mまでを#0とし、10から30mまでを#2、30から50mの間を#4とします。これにより、川端シンボルロード35m右側にあるお店は「川端シンボルロード#3」ということとなります。住所表示とは違い、通り名称と位置番号標識により案内マップを活用して容易に目的地のどこまでつづることができます。

すさきのイベントやグルメ情報は、**ケータイでチェック!**
<http://WWW.city.susaki.kochi.jp/sat/index.html>

凡例		
	焼肉	市役所
	焼鳥	警察署
	かまぼこ・天ぷら	郵便局
	イタリアン	小・中学校
	カレー	消防署
	ファミレス	図書館
	トイレ	工場
	SAT駐車場	ガソリンスタンド

裏面に店舗情報があります

めがね橋通り
 めがね橋通りの起点には案内でも新しい石橋のアーチ形をしためがね橋があった。川端シンボルロード1丁に復元されている。通りの中ほどには、木造建築では非常に珍しい円形の建物があつた。

第2駐車場 無料
 ショッピングセンター YUTAKA

第1駐車場 無料
 川端シンボルロード
 以前はここに川端川とよばれる清流があったが、生活環境の変化により水量が多か、また、水の臭いも発生し、福川を市民のシンボルロードとして再生させ、街の賑わいを取り戻したいという市民の熱意を受けた須崎市が高知県等の協力を得て事業を実施。「水と緑の川端シンボルロード」行として再生し、今では市民がボランティアで清掃活動や植樹活動にがんばっており、市民の熱い声、川端シンボルロードとして市民に愛されている。毎週木曜日は木曜日が開催されている。

須崎の歴史の紹介

くろしおのふるふるさと すさき
 とこまで東までしく広がる青い海と、緑の水やに覆われた思ひ多き山々、清らかな水を豊かにたぐえて流れる川。黒潮の恵みとし、ふりそそぐ太陽の光を浴びて、人々は活気に満ち溢れています。南国の強い日差しを浴びながら、豊かな自然と人びとの暮らしが調和した黒潮の都、それが私たちのふるさと須崎市です。

この地に住み着くようになったのは弥生時代中期の末、今から約1800年前ごろと言われています。新荘川などから流れ出る土砂が砂州を形成し、現在の地形ができました。かつて「洲崎」と呼ばれたこの地はいつしか「須崎」と呼ばれるようになりました。

古くから漁業の町として、多くの物資が通る港町として栄え、須崎湾は天然の良港として入々の暮らしを守り続けてきました。近世には、物資の集積基地として重要な位置を占め、現在の商港都市、須崎の基盤となりました。

「須崎市50年の軌跡」から



「SAT」ってなに?
 須崎市は、「まち全体がサービスエリア」を目指しており、サービス(Service)・エリア(Area)・タウン(Town)の頭文字をとって、SATと呼んでいます。

お大師通り
 四国霊場第22番札所、大善寺がある。「二つ又」や「日影」の寺号が由来で、多くの参拝客が訪れる。お大師の御社は、お大師の御社である。

古市通り
 須崎の自所として、50年以上も続いている朝市「日曜市」が開催されている。地元産の新鮮な野菜、果物、魚介類、雑貨品などが多く並び、地元産品のおしゃれな店もあつた。

魚市場通り
 須崎の自所として、50年以上も続いている朝市「日曜市」が開催されている。地元産の新鮮な野菜、果物、魚介類、雑貨品などが多く並び、地元産品のおしゃれな店もあつた。

本通り
 須崎の自所として、50年以上も続いている朝市「日曜市」が開催されている。地元産の新鮮な野菜、果物、魚介類、雑貨品などが多く並び、地元産品のおしゃれな店もあつた。

駅前通り
 須崎の自所として、50年以上も続いている朝市「日曜市」が開催されている。地元産の新鮮な野菜、果物、魚介類、雑貨品などが多く並び、地元産品のおしゃれな店もあつた。